

平成26年度第1回苫小牧市男女平等参画審議会会議録（概要）

1 日時 平成26年7月10日(木) 午後1時30分～午後2時55分

2 会場 苫小牧市女性センター4階 講習室A

3 出席者 苫小牧市男女平等参画審議会委員10名出席 欠席者 なし

事務局：市民生活部（部長、男女平等参画課長・主査・嘱託員）

関係担当部署職員

総務部（行政監理室人事研修主幹）

健康こども部（こども育成課長、こども支援課長、青少年課長、

健康支援課長補佐）

産業経済部（工業労政課長）

教育部（指導室長、生涯学習課長）

4 傍聴者 なし

5 会議次第

（1）新任委員紹介（2）部長挨拶（3）関係担当部署職員紹介（4）副会長選出

（5）副会長挨拶（6）議事

*議題に入る前に、既委員2人退任により新任委員2人を紹介

*部長挨拶、今年度から主な関係担当部署が同席により自己紹介

*前副会長退任のため副会長の選出、副会長挨拶

6 議事概要

（1）男女平等参画社会実現を目指す国などの動きについて

（2）平成25年度「苫小牧市男女平等参画基本計画」（第2次）施策別実施状況

*資料に基づき事務局から説明

*今年度から苫小牧市男女平等参画基本計画施策別実施状況の報告については、関係担当部署から説明

◆委員の主な意見等 については、推進の方向等を記載しております。

※ 全 体

○質問 各施策評価の達成度についての基準と今後達成させるための施策についてはどのように考えているのか。また、担当課により評価が統一できていないのではないかと。

○回答 評価については、施策全体というよりは、施策に対して平成25年度の予定した事業についての達成度についての各担当課の評価ということでご理解願います。

○意見 説明に対しての資料のつづり方が見づらいので、説明する課ごとにするとかしてほしい。

○回答 来年度に向けて考えます。

男女の家庭生活と他の活動との両立支援

○質問 市立はなぞの幼稚園の閉園により、障がい又は疑いがある子どもさんを持つ親御さんをどう支援していくか。3歳児、1歳半などの検診時に早めに分かりケアすることで、大事に至らないこともあるので、親御さんの支援についての懸念をもっており、そのあたりの説明を願いたい。

○回答 平成26年4月からの機構改革で新設された健康こども部こども育成課で幼稚園、保育園も含めた0歳から5歳までの年齢層に特化した施策を打つことになっています。また、こども育成課に、はなぞの幼稚園の前教諭が配置され園から申し出のあった方々に対して様子を見に行ったりしています。また、そのことを保育園にも広げて行う予定であり、幼稚園教諭、保育士で、障がいやその疑いのあるお子さんについての見極

めも含めた講習や研修を実施する予定です。

○質問 子どもを緊急に預けなくてはならなくなった場合、ファミリーサポートセンターや里親制度があるが、事前登録が必要であったり長時間になると費用を要することになるが、補助制度などが必要ではないか。富山市では、子が生まれたときに、子育て支援が利用できるお試し券的なものを配っており、苫小牧でもできるのではないか。

○回答 ファミリーセンターは、一時預かりという形をとっています。実際に、富山市さんからサービス券のことをお聞きしましたが、まだ苫小牧については、残念ながらございません。ただ、平成27年4月から新たにこども子育て新制度で計画を策定することになっており、その中でこういったものが必要なのか、今後サービス券ですとか、色んなお試しできるような制度などを考えていきたい思います。

○質問 子育ての仕方だとか、どう暮らしたらいいとか、そこが困ることなんだという事も考えられないような親達の子育てをしている家庭が多いと思います。その中で、虐待が出たり、DVが出たりがあると思います。市として、そのような家庭に対してどういう策を持っているのか。保育園などは、事細かに手を尽くしている計画は、すごいと思うが、言い方はまずいかもしれないけれど、底辺でもがいてる親達が沢山おります。その対策のための施策が、組み込まれているとしたら、何ページのどこにそれが当たるのかを教えてくださいたいんです。

○回答 施策としましては、32番が該当になると思いますが、やはりそういった方々は中々連絡をしてこないというのが実情です。周りから連絡がきたり。例えば保育園に子どもさんがいらっしゃったら、保育園の方から連絡がきたりします。そういった方々については、直接市の相談員が出向いて事情を聞いたり内容を聞いてどういった対応をするのか、場合によりケース会議などを開いて方向性を決めています、中々解決に至らないのが非常にこちらでも苦慮しているところです。

○意見 懇談の中で、そういうお母さん方は、共同住宅など安心して暮らせる自立するための施設が必要と私どもの方にお話はありました。そういうことで、私達は要請もしてきました。国の施策が優先で、苫小牧独自のっていうのは中々生まれていかないっていうのが現状だと思うんです。市としても、そこが精一杯なのかも分かりませんが、市長さんも今度、この福祉に対しては本当にこれからの4年間は福祉で充実した福祉の街にしたいということで、お話されてますことから、どこでもやっている施策っていうのは、それは当たり前のこととして、声さえもあげられないお母さん方が居るっていう所を数が少なくてもそこを引き上げていかないと、本当に幸せな子供達が犠牲になってくっていうことをまず、子ども達の人権のところをきちっと考えられる施策にしていきたい。私は、そういうお母さん方のため、親のために、施設なり、共同住宅なり、そういうこともひとつの案として、きっと難しいことかもしれないけれど、私はできるまで、声を出していきたいなと思っております。

男女平等参画の視点に立った教育の推進

○質問 教育委員会の方に道徳の教育の中で、取り上げたいということでしたけれど、道徳の教育の本の中でどういう風な形で道徳教育として取り上げるのでしょうか。その辺、具体的に出来ればお話お願いいたします。

○回答 道徳には教科書がございません。したがって国の方からはこれまでは、こころのノートっていうのを配られていましたし、将来的には教科を見据えて教科書を採択していく流れになりつつあります。今年度から、いわゆる移行期間的な部分で暫定的に副読本を改定して、全国の子ども達に国の方で配ったという、それが、私たちの道徳というものです。これは、委員がおっしゃった男女平等の部分は、どこに該当しますかっていう、これだっていうものがございません。全てにおいて、そういったものを取り扱うっていうか、それにまたがっているっていうのは考え方、見方の方が適切

なのかなと思いますけれども、特徴としては、学校で道徳の時間に使った材料が、それが子ども達、家庭に持ち帰ってお父さん、お母さん方からご意見を頂いたり、また学校に戻ってきて、その学校と家庭の架け橋になる。そういった特徴のあるものです。したがって、道徳の時間というのはこれだっていう答えは、事由の中ではないんですけども、学んだことが教育的実践力といいますか、日常生活に生きていくような形で、学校の方では指導してございます。したがって、相手を思いやるですとか、それから相手を認める、お互いの立場を尊重するというのが根底にあると思います。道徳教育自体がそういうものですから、副読本の内容も子ども達にそういうことを進化させる内容になっているということでございます。

○質問 道徳と、男女平等というところで、わかりません。人権を尊重するというところに結びついていくっていうことでは、ちゃんと副読本の中に書かれていけば分かるけれど、説明だけではちょっと分からないと思います。

○質問 副読本はまだ出来てないんですよね？副読本は、あるんですか？

○回答 副読本は、もう配ってます。道徳教育っていうのは道徳の時間だけじゃなくて、全ての学校の教育活動で行っていかなくちゃならないものなんです。例えば、男女の体の違いだとかをお互い認めるっていうのは、保健の時間でも勉強しますし、あるいは、家庭科の時間では家族の役割というものを勉強していきます。ただ、道徳の時間というのは、道徳教育の要の時間といって、各教科で学んだことを道徳の時間で進化させて、そして日常生活に活かしていこうという。そういった部分での道徳の時間です。そこで使うのが、今ここで出てくる、私たちの道徳っていう副読本なんです。ですから、男女平等の考え方っていうのは、道徳の時間だけではなく色々な教科で道徳教科の関連というところで取り扱っているっていうところでご理解いただきたいと思います。

○質問 この宣言文の一番最後に「平等意識を育てる教育をめざします」ということにはなってますけど、これは学校教育だけじゃなくて、家庭教育、社会教育、その中でやってかなきゃならないと思いますけれど。学校教育として、どういうことを考えられていますか？この平等教育を学校の中でやるとしたらどういうことを、道徳のことも話されましたけれども、その外に考えられていますでしょうか。

○回答 学校の教育活動全てにおいて、やはり今もそうなんですけども、例えば道徳教育の関連を全部の教科で図ってますし、あるいは男女・教育っていうのは、いろいろあるんですね、学校の中では。福祉教育ですとか、人権教育だとか。それも特別何の時間でやりなさいというのはいないんです。ですから、全ての時間に関連を図ってやっていくということですから、苫小牧市の小中学校の学校教育としては、今回こうゆう宣言が出ましたので、やはりこうしたものをきちんと踏まえた部分での学校教育を推進していかなければならないなっていう風には感じはしていますし、我々もそういう指導は今後していきたいなとは思ってます。

政策・方針決定過程への女性の参画拡大

○質問 市の職員の女性の管理職登用が遅いことについて、今は、入ったときから男性も女性も研修でも何でも平等に受けて、そしてお仕事をしているってということで、受け取って良いか。これだけの部長がいる中で、女性がひとりしかいないっていうのは、過去の研修などが、現われてるんじゃないかなと私は受け取ってました。間違っていたら訂正してください。

○回答 研修については、男女を分けての研修は一切なく採用から徐々にステップアップし、その過程において男女の差を設けるというのは一切ありません。ですからその研修についても、全く同じカリキュラムの中で階層に応じた研修を経て、最終的に管理職

になっていくというような流れになっているかと思えます。これからは、このような動きがございますので、どんどん管理職の女性の登用を図っていただければと考えております。

○意見 団体推薦がある審議会委員などの女性男性って比率だけをするんじゃなくて、もう少し中身のある、女性ばかりでいいんなら女性ばかりでいいんですし、男性だけでいいんだったら男性ばかりでもいいような、そんなような考えもひとつ持った方がいいんじゃないかなと思われませんが、それはちょっとした気持ちです。

○意見 形式になってしまうというか、これだけの女性が集まったんで、それではやっぱり男性の意見も必要だからというような感じで人数が決まってくるんじゃないかと思えます。

○質問 先程から、話が出ている各種審議会、委員会等への男女比率の問題ですが、団体にこの推薦を依頼する場合に、男女比率についてご留意いただけますようお願いいたしますという文言が付けるようになっているのかどうか。というのは私、前、弁護士会の方で、常任委員会とって、各種弁護士の委員を推薦するとき、その審議にかかわったときに、札幌市においては、だいたいどの委員とかも選出をお願いするときには、女性の委員をとかっていう風に、かなりはっきり打ち出している場合が多かったものですから今見てみると、さほど効果があったのかどうかというのには問題がありますけれども、そういう工夫をされているのかどうかというのを伺いたい。

○回答 平成23年度、24年度に各課に文書で通知をしております。しかし、まだ改善されていないところがありますし、中には専門職だけなので難しい審議会もあります。今後はもっと徹底して女性の参画を進めていきたいと思えます。昨年宣言しましたので、今年度から益々そういう面で進めてまいりたいと思えますのでご理解いただきたいと思えます。

○意見 市役所ばかりじゃなくて、他の道の機関も保健所とか色んな委員を選ぶ際にも、別に男性が何名とか、女性が何名とかってことでは言ってこないんです。ところが、実際にいらしたら、実は女性の方を欲しかったんですっていう言い方をされるんです。私どものところへ来てね。だから、ちゃんと文面で女性が何名くらいとかってしていただいた方が、はっきりしていいんじゃないかっていう風に感じております。

○意見 多分徹底は図られてないと思うんで、多分これは男女参画ってうたってるからどうしても男女って、男と女が必要だっていうことで基本的にこういう風になったと思うんですけど、普通は文書が来て適当って言ったらおかしいですけど、誰かを人選してくださいっていうのがあったんですよね。だから役所自体も、そういった徹底を図られていないっていうのが実情だと思います。

男女平等参画の啓発の推進

○意見 都市宣言記念式典のことですが、審議会委員の役割は、この都市宣言の市長に諮問して終わったんでしょうか？私は、記念式典までがひとつの区切りかなと思ったんですけど、式典では、一般席に居たまま、名前を紹介されたが、今言ってもどうしようもないが、区切りがどこで終わったのかなという風に感じました。

○回答 記念式典は、案内の出し方に手落ちがありました。私達が考えてたのは、来賓で来て頂いて、会場の席も用意してたんです。皆さんをまとめて壇上へ案内する予定だったんですが、連絡の仕方の不手際により案内できなく、この場をお借りしまして、お詫び申し上げます。

(3) その他

事務局から

*資料に基づき「日本女性会議 2014 札幌大会」についての説明と案内

委員より

会議の進め方について、以前ですと苫小牧市の計画に疑問に思ったことが、担当の職員がいないことから、後日回答の連続でしたが、今回のように各課の担当の方にご説明いただくというのは非常に意義深いものですし、また聞いていて本当に感慨深かったです。確かに発表形式の問題とかはあるかもしれませんが、できれば同じような形式というのを続けていただくと、こちら聞いてて非常に分かりやすかったですし、ありがたいなという風に思いました。